

研究委託校・実践校の紹介

洞爺湖町立とうや小学校

公開研究会▶ 9月15日(木)

本校は研究主題を「単式でも複式でも使える『学びの質を高める』学習指導の探究」として、今年度が3か年計画の2年次となります。

子どもたちが輝くために「個別でも協働でも使えるICT機器」「少人数のメリットを活かしたリーダー学習」「振り返り、定着につながるぐるぐるノート」を全学年が共通して活用することで主体的・対話的で深い学びを実現し、学級形態や規模に関わらず学びの質を向上させることを目指し、研修を深めています。

単式でも複式でも使える 「学びの質を高める」学習指導の探究

～少人数のメリットを活かした
学習指導の改善と工夫～



◀ぐるぐるノートが先生方にチェックされ、次に回されるために廊下の机に提出されているところ

5年 算数科
「合同な図形」
お互いの考えを
ジャムボードを使っ
て、説明し合っ
ているところ ▶



登別市立鷺別中学校

公開研究会▶ 10月27日(木)

本校では、『学び合い』を通して、自ら物事を捉え、思考していける生徒の育成～各教科における主体的・対話的で深い学びを通して～を研究主題として校内研修を行っており、今年度は3年次計画の3年目です。全教員が略案による授業公開を行うとともに、10月27日(木)に公開研究会を開催します。また、研究主題達成のための手立て及びその成果についてレポートの作成と交流を行い、学校全体で授業の改善につなげています。さらに生徒個人と学級の変容を見取るため、アセス・ほっとを年に2回実施し、結果の分析について交流しています。

「学び合い」を通して、自ら物事を捉え、 思考していける生徒の育成

～各教科における主体的・
対話的で深い学びを通して～



◀1年 国語科
「行書」
動画を活用して
書いているところ

校内研修
事後研でジャム
ボードを使って交
流しているところ ▶



壮瞥町立壮瞥中学校

公開研究会▶11月2日(水)

本校では、本町で推進する「そうべつ型小中一貫教育」の実現に向け、町教研と連動した小中統一研究主題の設定や、身に付けさせたい資質・能力の育成を目指したふるさと学習「まるごと壮瞥」の系統性を図る研究を進めています。地域の教育資源や人材を活用し、小中9年間の学びのつながり(学びの系統性と連続性の確保)を意識した「指導計画の確立」と、発表の機会を重点とした相手に伝え合う活動の充実を目指した「指導方法の充実」を研究の柱として、3年生の「子ども議会」における議案提出をゴールに見据え、試行錯誤をしているところです。

教育の連続性と豊かなかかわりの中で主体的に学びを高め、
未来のふるさとをつくる子の育成

～自らを見つめ、想像力と表現力を高め、よりよい未来を創造する生徒を目指して～



◀1年 総合的な学習の時間
「まるごと壮瞥(産業)」りんごの摘花をしているところ



▲3年 総合的な学習の時間
「まるごと壮瞥(自然)」有珠山のフィールドワークをしているところ

白老町立萩野小学校

公開研究会▶11月25日(金)

本校では、「多様な問題解決の過程を通して、共に基礎・基本を身に付けようとする子の育成」を目指し、日常の授業改善に力を入れて研究を推進しています。

今年度は算数科を中心に、児童が個人思考で課題解決の方法を意欲的に考え、学び合うことで考えを深められる授業を目指しています。

探究型授業の質の向上を図るべく、授業者自身が授業を分析し、振り返られるように計画的に研究を進めています。



多様な問題解決の過程を通して、
共に基礎・基本を身に付ける
子の育成



◀6年 算数科
「面積」
考えを説明しているところ

6年 算数科
「分数×分数」
学習の流れと
児童の思考がわかる板書 ▶



伊達市立伊達中学校

公開研究会▶11月18日(金)

伊達中学校は以下をテーマに研修に取り組んでいます。

- ① 生徒が確実に理解できる授業 (1年次)
- ② 生徒が主体的に考え、
学びを深められる授業 (2・3年次)

近年様々な取組や改革が行われていますが、教員として、まずは基本に立ち返り、そのうえで、生徒にとってより良い授業を提供する力をつけることを目的にしています。1年次と2年次でテーマが大きく異なるのはそのためです。

特に今年度は、授業に対するアンケートを数回取り、生徒が困難に感じている部分を明らかにし、教員自身が謙虚に自らの授業を見直して、日常の授業の改善に生かす一年としています。

- ① 生徒が確実に理解できる授業 (1年次)
- ② 生徒が主体的に考え、
学びを深められる授業 (2・3年次)



▲1年 道徳科「仏の銀蔵」
黒板で意見交流
をしているところ



豊浦町立礼文華小学校

今年度公開研究会予定なし

本校では「目標に向かって努力し、学び進める子どもの育成」を研究主題とし、「主体的な学び」を実現する算数の授業づくりや家庭学習の推進を通して研修を進めています。

目的意識をもった学習経験を積ませることにより、自ら学習を進める力が身に付くと考え、学習スタイルの統一や、学習の方法を見える化する「学びの足あと」「学びの地図」「学びのらしんばん」の取組をしています。

また、主体的な学びを促すためには、学習環境を整えることが必要であると考え、問題解決の見通しをもてる複式授業の工夫や、ICT機器の効果的な活用も研究しています。

目標に向かって努力し、
学び進める子どもの育成

～「主体的な学び」を実現する
算数の授業づくりや
家庭学習の推進を通して～



◀2年 算数科
「図を使って考えよう」
担任の指示を受けながら学習しているところ

3年 算数科
「一万をこえる数」
担任が離れている間にタブレット端末を使い自分の考えを書き込んでいるところ ▶



夏 季研修講座が実施されました。▶

去る7月29日(金)、胆振教育研究所主催による夏季研修講座が実施されました。

今年度は、登別市などでSC(スクールカウンセラー)を務めておられる尾野裕子先生をお招きし、「不登校事例の理解と対応～SC奮闘記!子どもたちから学ぶこと～」と題し、ご講演いただきました。講演内容についてご紹介します。

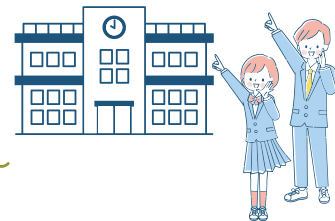
講演内容

- 1, SCのお仕事・SCの使いかた
- 2, 不登校事例の見立てかた
～最近多い2パターンを中心に～
- 3, 予後の良い事例について
- 4, 未然防止、早期発見・対応について
- 5, グループワーク&質問コーナー



1 SCのお仕事・SCの使いかた

- ・基本スクールカウンセラーへの依頼でNGはない。
- ・まず、声をかけてほしい。



2 不登校事例の見立てかた～最近多い2パターンを中心に～

- ・大きく「過剰適応タイプ」「発達偏りタイプ」に分けられる。
※この2タイプは尾野先生の命名。不登校事例はこの2タイプだけではないし、この2つのタイプが複合している場合もある。
- ・「いじめ」による不登校は少ない傾向。

3 予後の良い事例について

- ・家庭の理解がある。
- ・医療機関などしかるべきところにつながった。
- ・スモールステップを踏めた。



4 未然防止、早期発見・対応について

- ・スクールカウンセラーの配置(予算化)
- ・職員研修の実施
- ・ストレスマネジメント教育の実施

5 グループワーク&質問コーナー

ZOOM内と講演会場内で小グループに分かれて、グループトークが行われました。感想や尾野先生への質問などが多数出されました。

不登校生徒への対応では、日々悩むことが多い私たち教員ですが、スクールカウンセラーという強い味方がいることを実感できた講演になったのではないかと考えています。

胆振教育研究所では、先生方に役立つ研修を企画しています。次回は冬季研修講座を予定しています。ぜひご参加ください。

